



本学は一般財団法人大学教育
 保証・評価センターが実施した
 大学機関別認定評価において
 大学評価基準を満たしていると
 認定されました。



本誌掲載の記事、写真、
 イラストの無断複写、転載を禁じます。



Yamagata Prefectural
 University of
 Health Sciences

山形県立保健医療大学

Yamagata Prefectural University of Health Sciences

[お問い合わせ先]

公立大学法人 山形県立保健医療大学教務学生課
 〒990-2212 山形県山形市上柳260番地
 TEL: 023-686-6688 / FAX: 023-686-6674
 URL: <https://www.yachts.ac.jp/>

山形県立保健医療大学
 リンク先はこちら



Graduate School of YPU GUIDE 2025



山形県立保健医療大学
 Yamagata Prefectural University of Health Sciences

大学院
 保健医療学研究科
 案内

TRAFFIC ACCESS 交通アクセス



飛行機	山形空港	タクシー	保健医療大学
羽田空港	JAL 約60分	約40分	保健医療大学
伊丹空港	JAL 約75分		
名古屋空港	JAL/FDA 約65分		
新千歳空港	JAL/FDA 約65分		
JR	山形新幹線	山形駅	山形駅
	JR奥羽本線	約2時間45分	保健医療大学
	南出羽駅	徒歩 約10分	
	JR奥羽本線・仙山線	羽前千歳駅	
バス	東京	高速バス 約5時間40分	山形
	仙台	高速バス 約1時間15分	
	酒田(鶴岡)	高速バス 約2時間45分(約2時間)	
	山形駅	県立中央病院行 約30分	





山形県立保健医療大学大学院に 関心をお持ちの皆様へ

本学は、2000年に1学部3学科を擁する4年制大学として開設され、2009年に公立大学法人として法人化しました。本年は設立から25年目を迎えましたが、この間、2004年に大学院修士課程(大学院博士前期課程)、2017年に大学院博士後期課程を開設し、看護学、理学療法学、作業療法学の3学位(修士、博士)を授与する体制になりました。山形の地に、基礎教育から、高度・専門化した研究までを一貫しておこなう保健医療の教育と研究を提供する拠点が確立し、着実な発展を遂げています。大学院修士生は、山形県内はもちろん、東北地方や全国で保健医療の教員、指導者、専門職として華々しく活躍しています。

周知の通り、世界の保健・医療・福祉を巡る環境は激変しています。医療技術やInformation and Communication Technology (ICT)は絶え間なく革新され、それに応じた患者・利用者への対応も多様化しています。先進国では少子高齢化・人口減少社会が到来し、発展途上国でも数十年先には同じ問題を抱えることが確実視されています。

わが国は少子高齢化・人口減少社会の

先頭を走っていますが、とりわけ山形県を含む東北地方は、その先頭、すなわち「世界の先頭」を走っています。本大学院は、山形県内や東北各地をフィールドとすることが容易であることから、今後わが国はもちろん、全世界の喫緊の課題である少子高齢化・人口減少社会における保健医療の種々の課題や対応策を探究する先駆的研究に取り組みやすい絶好の環境にあります。すなわち、本大学院で研究活動して成果をあげることが「世界を牽引する」ことになるのです。本大学院修士生が各所で華々しく活躍している理由にはこのような背景があります。

もちろん、大学院生が成長するためには、本人の努力に加えて、恵まれた研究環境が必要です。本大学院は、多彩で高度な教育・研究能力を有する世界水準のスタッフを擁しており、これらの教員が分野の壁をこえて、相互に教育と研究に関わり合う全学的・学際的な指導にも配慮しております。しかも最先端の教育・研究機器が揃っております。加えて、本学は欧米の大学をモデルとしており、ヨーロッパ調の美しい校舎をはじめ東京ドームより広い5ヘクタールを超える広大なキャンパスを有し、10ヘクタールを超える「健

康の森公園」に隣接するなど、恵まれた自然環境の中にあります。まさに、「科学や教育の心」を養うには絶好の環境にあります。

また、本大学院では、research assistant (RA) 制度やteaching assistant (TA) 制度を活用した本大学院生への経済的支援制度を整備しております。さらに、講義を夜間・休日に設定するなど、社会人大学院生の受講や研究にも最大限の配慮を払っているほか、ICTを駆使した遠隔講義にも対応しているため、必ずしも現在の居住地を離れる必要もありません。したがって、保健・医療に従事しながらより高度な技術・知識の獲得や直面する課題の解決を目指す、学び直しなどでも本大学院を活用できます。米国、欧州、アジア諸国の大学との交流も活発です。

教育・研究環境抜群の本大学院で、世界水準の保健・医療のスペシャリストになれるように、私たち教職員一同は全力で支援しますので、どうぞ、「志を高く」本大学院の門を叩いてください。

山形県立保健医療大学大学院
学長 上月 正博

EDUCATIONAL GOALS

教育目標

- 博士前期課程**
- ① 地域包括ケアや他職種連携等の変化しつつある保健・医療・福祉に対応しうる創造的な知識・技術を探求し、看護学、理学療法学、作業療法学、それぞれの視点から高度な専門的知識と技術を有する人材の養成
 - ② 地域課題を踏まえて保健・医療・福祉に関する創造性豊かな発想や、専門職の発展に向けて自律的に行動できる能力を持った職業人の育成
 - ③ 保健医療活動において、看護やリハビリテーション等サービスの指導的役割を担える人材の育成

- 博士後期課程**
- ① 地域包括ケアや他職種連携等の変化しつつある保健・医療・福祉に対応しうる創造的な知識・技術を探求し、看護学、理学療法学、作業療法学、それぞれの視点から高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を基に、あらたな「知」を提示できる人材の養成
 - ② 地域課題を踏まえて保健・医療・福祉に関する高度な教育研究を自律的にリードできる人材の養成
 - ③ 保健医療活動のリーダーとして、新たな看護やリハビリテーション等のサービスを研究・開発・実践できる保健医療の研究者あるいは高度専門識者の養成

ADMISSION POLICY

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針) 本研究科では、次に示すような意欲と向学心のある人を求めています。

- 博士前期課程**
- ① 保健・医療・福祉の分野で社会に貢献しようとする意欲のある人
 - ② 高い基礎学力と専門分野の基礎知識を持ち、科学的な根拠に基づいた保健・医療・福祉に貢献しようとする意欲のある人
 - ③ 保健・医療・福祉の発展について、既存概念にとらわれずに創造的に考え、実践しようとする意欲のある人
 - ④ 国際的視野を持ち、協調性に富む人
 - ⑤ 就業のまま就学を希望する人については、仕事とのバランスを保って学業の課題を遂行できる人
 - ⑥ 専門看護師課程選択では、看護実践に関する課題解決に向けた意欲のある人

- 選抜の基本方針**
- 専門科目、英語、個別面接を行い、総合的に評価します。
専門科目および英語では、入学後の学修に十分対応できる志望した研究分野に関連する知識、思考力、論文読解力を評価します。
個別面接では、意欲、表現力、コミュニケーション能力を評価します。

- 入学までに修得しておくべき能力**
- ・専門分野をより深く学ぶために必要な学士課程卒業レベルの専門知識
 - ・研究に関する基礎的知識
 - ・論文作成に必要な基礎的語学力並びに英語読解力

- 博士後期課程**
- ① 保健・医療・福祉の分野において、教育・研究者、リーダーとして社会に貢献する意欲のある人
 - ② 保健・医療・福祉の発展に寄与する研究に、科学的・論理的かつ多角的に自立して取り組む能力を備えている人
 - ③ 保健・医療・福祉の分野において、理論及び技術の開発、新たな課題の解決に向けて、創造的、建設的に取り組む力を備えている人
 - ④ 国際的視野を持ち、協調性に富む人
 - ⑤ 就業のまま就学を希望する人については、仕事とのバランスを保って学業の課題を遂行できる人

- 選抜の基本方針**
- 英語、専門科目、口述の試験を行い、総合的に評価します。
英語では、博士前期課程段階の語学力が修得されているかを評価します。専門科目では、志望した研究分野に関連する優れた知識、思考力、論文読解力を評価します。
口述では、これまでの研究内容、今後の研究計画等から研究遂行能力を評価します。

- 入学までに修得しておくべき能力**
- ・研究に関する基礎的知識
 - ・論文作成に必要な専門分野の英語論文読解力並びに洞察力
 - ・研究者としての倫理観

研究科長メッセージ MESSAGE FROM DEAN OF THE GRADUATE SCHOOL



本学大学院は、保健医療に関する専門性の高い教育研究を通じ、高度な知識と技術、卓越した実践能力と問題解決能力を有する質の高い人材養成を行い、病院、保健福祉施設等へ専門職として排出することにより、山形県における保健医療福祉の一層の発展を図り、もって県民の健康及び福祉の向上に寄与することを目的に設置されました。

本学大学院では、現場で感じている臨床疑問(Clinical question)を科学的手法により研究疑問(Research question)へと昇華させ、従来の定性的な部分を科学的手法により問題解決し、「Evidence-based health care」を実践できる人材の育成を目標の1つにしています。具体的には、博士前期課程では、探究心と課題解決能力のある保健医療の教育研究者と高度専門職業人の育成を目指します。博士後期課程では、①地域包括ケアや多職種連携等の変化しつつある保健・医療・福祉に対応する創造的な知識・技術を探求し、看護学、理学療法学、作業療法学のそれぞれの視点から高度な研究能力及びその基礎とな

る豊かな学識を基に、あらたな「知」を提示できる人材、②地域課題を踏まえて保健・医療・福祉に関する高度な教育研究を自律的にリードできる人材、③保健医療活動のリーダーとして、新たな看護やリハビリテーション等のサービスを研究・開発・実践できる保健医療の研究者あるいは高度専門職者の育成を目指します。

本学大学院は1研究科1専攻で構成されていますが、博士後期課程は博士前期課程との整合性を維持しながら、専門性を積み上げる形で教育課程が編成されており、看護学、理学療法学、作業療法学の3つの分野を専門的かつ包括的に学ぶことができます。そのため1専攻で複数の学位名称(看護学、理学療法学、作業療法学)の授与が可能な全国でも極めて希少な大学院教育プログラムを実施しています。

現在、本学に大学院が設置され約20年が過ぎ、多くの修了生が全国各地で活躍しています。そして、毎年、「志」と「夢」を持った多くの方が全国から集まってきました。特に本学大学院は、社会人の入学が多いため、個人の状況に応じて長期履修制度、夜

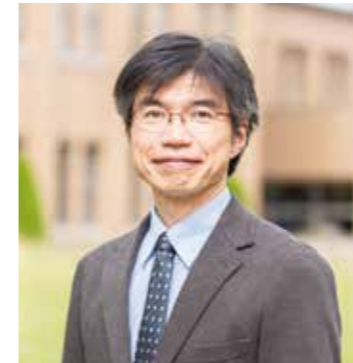
間開講・集中講義、遠隔授業など働きながら学べる支援体制も充実しています。是非、自身のキャリアアップの1つとして大学院への挑戦を検討してみてください。大学院修了後は、きっと目の前に新しい世界が開けているはずです。

本学教員は一丸となって研究をサポートする体制を整えて、皆様の入学をお待ちしています。

山形県立保健医療大学大学院
保健医療学研究科
研究科長・教授 加藤 浩

研究分野 FIELD OF STUDY

看護学分野



【問い合わせ先】 分野代表: 安保 寛明 教授
TEL:023-686-6735 Email:hambo@yachts.ac.jp

看護学分野では、博士前期課程に母性看護、老人看護、精神看護(リエゾンナース、地域精神看護)の3専門分野4副専攻において高度実践看護師(専門看護師)の養成課程を備えています。この春までに4名の認定者を輩出しました。この4名は専門領域の範囲をこえて事例検討会を行っており、修了生同士が専門性を超えて関係性を構築できる強みがあります。

研究活動では、複数の修了生が日本看護科学学会誌などの国内有数の看護系雑誌に原著論文を掲載しています。大学院生のはほぼ全員が働きながら学び、講義や演習は勤務調整をつけやすい時間帯や遠隔などの方法で実施します。また、学会への参加や投稿の際に教員から助言や支援が得られますので、国内外の広い視野で知見を深めることができます。大学が交流協定を結んでいる台湾や米国の大学との交流の機会も活用可能です。

大学院はキャリアだけでなく人的資源を深めるいい機会です。本学の教員や大学院生のつながりを、ぜひあなたも獲得してください。

理学療法学分野



【問い合わせ先】 分野代表: 鈴木 克彦 教授
TEL:023-686-6627 Email:ksuzuki@yachts.ac.jp

理学療法士の数は年々増加する一方で、理学療法の質の差が指摘されています。質の高い理学療法を提供するためには、専門職として常に新しい知見を吸収し、理学療法の効果を検証し、治療方法の開発・発展につなげることが望まれます。これらの能力は、研究活動で身につけられることが多くあります。具体的には、国内外の研究論文を読むこと、研究手法を検討・検証すること、研究で得られたデータを十分に考察することなどの過程で身につくと考えられます。

理学療法学分野には、県内のみならず全国各地から有職社会人の学生が多く集まってきました。仕事と大学院を両立するための長期履修制度があります。また遠隔の学生のためにオンラインでの講義や研究ミーティングも実施されています。臨床活動のなかで生じた疑問や興味のある分野を深めたいと感じている方の入学をお待ちしています。当該分野は専門分野の異なる教員が複数体制で指導します。興味のある方は、キャリアデザインとして大学院に挑戦してみたいかどうか。一度ご相談ください。

作業療法学分野



【問い合わせ先】 分野代表: 佐藤 寿晃 教授
TEL:023-686-6660 Email:tsato@yachts.ac.jp

平成29年4月から、博士後期課程が開設され、一貫した教育と研究の実施が可能となりました。作業療法学分野では、博士前期・後期課程を通じて、作業療法学の様々な領域の基礎から応用実践に至る教育と研究を行います。そして、保健・医療・福祉の現場において、より高度な知識と技能を持った高度専門職業人の育成や、次代を担う人材の継続的な育成を行う教育者の養成及び諸問題の対策などの研究開発を行う研究者養成を目標としております。

特に、研究指導体制は、各分野の連携強化の視点から複数体制を取り、研究課題・計画に沿って、分野を問わず関係する教員が加わり、チームとして、より多角的な指導体制を導入しております。また、働きながら学べるよう、長期履修制度もありますので、学生の事情に合わせた履修が可能です。

作業療法学分野に興味のある方は、是非とも入学を検討願います。

指導教員及び研究テーマ SUPERVISOR AND RESEARCH TOPIC

出願を希望する方は、出願前に、指導を受けようとする教員と電話、E-mail等で連絡をとり、入学後の研究等について相談を行ってください。

看護学分野

- 主研究指導教員(後期) 安部 寛明 教授 菅原 京子 教授 桂 晶子 教授 中村 康香 教授
 主研究指導教員(前期) 安部 寛明 教授 遠藤 恵子 教授 菅原 京子 教授 沼澤 さとみ 教授
 遠藤 和子 教授 桂 晶子 教授 菊地 圭子 教授 蓬田 伸一 教授
 中村 康香 教授 鈴木 育子 准教授 今野 浩之 准教授 高橋 直美 准教授
 山田 カオル 准教授

職名	氏名・問い合わせ先	主な研究指導テーマ	後期	前期
教授	安部 寛明 023-686-6735 hambo@yachts.ac.jp	・精神保健看護の知見を活かした援助システムに関する研究 ・精神的危機の予防と回復に関する研究 ・学校や職場を活用した健康増進に関する研究 ・共同意思決定に影響する概念モデルに関する研究	○	○
教授	遠藤 恵子 023-686-6642 kendo@yachts.ac.jp	・不妊カップルに関する心理社会的課題や援助に関する研究 ・思春期の性的な健康問題に関する研究 ・知的障がいをもつ子どもの性教育に関する研究 ・地域における母子の健康支援に関する研究	○	○
教授	菅原 京子 023-686-6615 ksugawara@yachts.ac.jp	・複雑多岐に渡る健康課題を有する対象者への共生を目指した支援に関する研究 ・保健師記録と情報開示に関する学際的研究 ・地元医療福祉の担い手となる看護職者の役割に関する研究 ・地域看護診断に基づいた保健師活動に関する研究	○	○
教授	沼澤 さとみ 023-686-6625 snumazawa@yachts.ac.jp	・看護技術教育における教育方法の検討 ・看護実践能力の向上に関する研究 ・看護師教育(キャリア、継続教育など)に関する研究	○	○
教授	遠藤 和子 023-686-6644 kaendo@yachts.ac.jp	・臨床看護、成人看護学に関する研究 ・患者教育に関する研究 ・食看護、糖尿病看護に関する研究 ・ライフストーリーに関する研究 ・臨床倫理に関連する研究	○	○
教授	桂 晶子 023-686-6623 skatsura@yachts.ac.jp	・家族介護者支援、高齢者虐待予防など高齢者のQOL向上に関する研究 ・生活習慣病の重症化予防など住民の健康寿命延伸や健康づくりに関する研究 ・地域防災および災害時の公衆衛生看護活動に関する研究 ・保健師活動に関する研究	○	○
教授	菊地 圭子 023-686-6729 kkikuchi@yachts.ac.jp	・性の健康教育に関する研究 ・女性の健康と運動に関する研究 ・周産期の女性の健康課題と支援に関する研究 ・母乳育児に関する研究	○	○
教授	蓬田 伸一 023-686-6637 syomogida@yachts.ac.jp	・生理活性物質による細胞機能調節機構の解析 ・細胞の物質取り込みとそれを制御する因子の探索	○	○
教授	中村 康香 023-686-6620 ynakamura@yachts.ac.jp	・日本人夫婦におけるCoparentingに関する研究 ・妊娠期の男女における快適性とQOL及び愛着形成に関する研究 ・妊娠期の就労・身体活動・生活活動・座位行動に関する研究	○	○
准教授	鈴木 育子 023-686-6645 isuzuki@yachts.ac.jp	・在宅療養児・者とその家族への援助に関する研究 ・訪問看護に関する研究	○	○
准教授	今野 浩之 023-686-6733 hkonn@yachts.ac.jp	・地域で生活を継続する精神障がいを持つ人々に関する研究 ・市町村の保健師活動および地域住民への健康支援に関する研究	○	○
准教授	高橋 直美 023-686-6663 ntakahashi@yachts.ac.jp	・エンド・オブ・ライフケアに関する研究 ・災害時の災害対応能力に関する研究 ・人材育成に関する研究	○	○
准教授	山田 カオル 023-686-6766 kaoyamada@yachts.ac.jp	・慢性疾患患者の生活誌に関する研究 ・社会的処方プログラム実践およびコーディネートに関する研究 ・臨床現場における相互行為に関する研究	○	○
講師	高谷 新 023-686-6628 stakaya@yachts.ac.jp	・看護師のメンタルヘルスの増進、離職予防に関する研究 ・ワーク・エンゲイジメント(仕事への向きき)に関する研究	○	○

理学療法学分野

- 主研究指導教員(後期) 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 石川 仁 教授 村 成幸 教授
 主研究指導教員(前期) 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 石川 仁 教授 村 成幸 教授
 渡部 潤一 教授 南澤 忠儀 准教授 室伏 祐介 講師

職名	氏名・問い合わせ先	主な研究指導テーマ	後期	前期
教授	鈴木 克彦 023-686-6627 ksuzuki@yachts.ac.jp	・足部変形の運動連鎖に関する研究 ・超音波画像解析による深部筋の機能解析研究 ・運動障がいに対する徒手治療の効果に関する研究	○	○
教授	加藤 浩 023-686-6659 hikato@yachts.ac.jp	・運動器疾患の理学療法に関する研究 ・表面筋電図を用いた動作分析に関する研究 ・バイオメカニクスに関する研究	○	○
教授	石川 仁 023-686-6646 hishikawa@yachts.ac.jp	・予防医学領域におけるバイオマーカーの探索 ・ワクチン接種率の地域間格差の要因研究	○	○
教授	村 成幸 023-686-6648 nmura@yachts.ac.jp	・超音波elastographyを用いた肩周囲の機能解析研究 ・画像(MRI・CT・超音波)による病態解析研究	○	○
教授	渡部 潤一 023-686-6662 jwatanabe@yachts.ac.jp	・小児リハビリテーション・発達障がい児の運動支援に関する研究 ・健康増進・運動疫学に関する研究 ・発症疾患と身体機能のリスク要因・予防要因における研究	○	○
准教授	南澤 忠儀 023-686-6639 tminamisawa@yachts.ac.jp	・立位姿勢の制御機構に関する研究 ・運動中の脳波-筋電図コヒーレンスに関する研究 ・転倒予防を目的とした物理的治療法の開発	○	○
講師	室伏 祐介 023-686-5220 ymurofushi@yachts.ac.jp	・股関節深層筋に関する研究 ・超音波画像診断装置を用いた筋柔軟性に関する研究 ・表面筋電図を用いた足部機能に関する研究	○	○
講師	赤塚 清矢 023-686-6737 sakatsuka@yachts.ac.jp	・予防理学療法に関する研究 ・生活習慣と身体機能に関する研究 ・心拍変動解析を用いた自律神経機能の評価に関する研究	○	○
講師	鈴木 栄三郎 023-686-6764 esuzuki@yachts.ac.jp	・非侵襲的脳刺激および心理物理学手法を用いた観察学習に関する研究 ・末梢神経磁気刺激法に関する研究	○	○

作業療法学分野

- 主研究指導教員(後期) 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 菊池 昭夫 教授 外川 佑 教授
 主研究指導教員(前期) 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 菊池 昭夫 教授 仁藤 充洋 教授
 外川 佑 教授 千葉 登 准教授 鈴木 由美 准教授

職名	氏名・問い合わせ先	主な研究指導テーマ	後期	前期
教授	佐藤 寿晃 023-686-6660 tsato@yachts.ac.jp	・ヒト上肢運動機構における機能解剖学および神経生理学的研究 ・運動器疾患患者における運動機能評価および治療効果に関する研究 ・高齢者の介護予防に関する研究	○	○
教授	藤井 浩美 023-686-6649 hfujii@yachts.ac.jp	・ヒト上肢の機能解剖学・神経生理学的研究 ・片麻痺の機能・動作解析に関する研究 ・眼と手の協応に関する研究 ・日常生活の作業活動解析に関する研究	○	○
教授	菊池 昭夫 023-686-6661 akikuchi@yachts.ac.jp	・神経変性疾患のPETによる脳機能解析 ・パーキンソン病の認知・嚥下・歩行障がいの病態解明 ・多系統萎縮症の病因研究	○	○
教授	仁藤 充洋 023-686-6656 mnito@yachts.ac.jp	・神経生理学的手法を用いたヒト運動制御機構の解明 ・運動機能の向上を促すリハビリテーション法の開発と神経メカニズムの解明	○	○
教授	外川 佑 023-686-6650 tsotokawa@yachts.ac.jp	・障がい後の自動車運転再開に関する研究 ・高齢者の自動車運転および地域移動手段に関する研究	○	○
准教授	千葉 登 023-686-6629 nchiba@yachts.ac.jp	・脳卒中上肢運動機能に関する研究 ・障がい者スポーツの社会的認知に関する研究 ・障がい者スポーツ選手の競技力向上のための研究	○	○
准教授	鈴木 由美 023-686-6652 yusuzuki@yachts.ac.jp	・上肢機能と日常生活活動の関連 ・頸部脊髄症者の上肢運動機能の回復過程と日常生活活動の研究 ・急性期脳卒中患者の転帰先を予測する作業療法評価の研究	○	○
准教授	森 直樹 023-686-6657 nmori@yachts.ac.jp	・重症心身障がい児・者の呼吸生理に関する研究 ・在宅障がい児の家族支援に関する研究	○	○

博士前期課程

広い視野で先駆的研究に取り組む

入学定員
12人



OUTLINE 概要

定員 / 12名 学位 / 修士(看護学)、修士(理学療法学)、修士(作業療法学) 標準修業年限 / 2年

CURRICULUM POLICY

カリキュラム・ポリシー

高度な知識と技能を有し、幅広い視野を持つ実践者、教育者及び研究者を育成するために、看護学分野、理学療法学分野、作業療法学分野のすべての学生が学際的に学ぶ「共通科目」「専門支持科目」「専門科目」の3つに大別して編成する。

共通科目
研究活動の基礎となる研究法と保健医療の基礎的知識等を学ぶための科目を配置する。

専門支持科目
各分野の専門科目を学んでいく上で基礎となるとともに、学生の教育と研究の深化を可能とし幅広い視野を養うための科目を配置する。

専門科目
分野ごとに専門知識の修得を目的とした特論・特論演習のほか、修士論文の作成に向けた、特別研究を配置する。専門看護師課程選択では、専門分野における高度な看護実践能力の獲得に必要な知識と技術の修得を目的とした演習や実習及び課題研究を配置する。

DIPLOMA POLICY

ディプロマ・ポリシー

01
臨床や教育、研究の場において、変化する保健・医療・福祉の課題と展望を発見し、解決していくために、幅広さと深さを兼ね備えた高度な専門的知識を活用して、科学的に思考することができる。

02
保健・医療・福祉の向上に、責任感を持ち、課題と展望を見出し、その解決に向けて積極的に貢献する高度な職業人としての姿勢を持つことができる。

03
自らの研究について、的確に表現し、意見を交換することができる。

VOICE 院生メッセージ



・山形県立保健医療大学看護学科 卒業
・中山町役場 健康福祉課 保健師
・博士前期課程2年次

現場で感じた疑問と向き合う時間が得られる

看護学分野
笹原 千有希さん Chiaki Sasahara (指導教員) 菅原 京子教授

大学院進学を決めた理由は、大学時代からお世話になっている先生方や慣れ親しんでいる環境であれば、仕事をしながら学ぶことができるのではないかと考えたからです。大学院は現場で感じた小さな疑問に向き合い、気づきや発見を得ることができるのが魅力だと感じています。特に保健師は業務中の疑問点などを研究する機会がないため、最初はとても不安でしたが、指導教員の先生方はじめ多くの先生方が丁寧に教えてくださり自分なりに頑張ることができています。人材育成に以前から関心があり、今後は教え導く立場になるために、さらに研鑽に励みたいと考えています。

研究テーマ | 地域包括支援センター保健師の三世帯同居後期高齢者における社会的孤立・孤立支援の捉え方

地域包括支援センターに勤める保健師にインタビューを行い、三世帯同居世帯に暮らす後期高齢者の社会的孤立や孤立支援に対してどう捉えているのかを調査します。地域で活躍する保健師の三世帯同居の後期高齢者が直面する孤立に対する支援に役立ててもらえるものになるよう研究を進める予定です。

私の大きな前進

- ・物事を論理的に捉え考える力の習得
- ・現場にある小さな疑問を解決しようと努める姿勢



・日本医療大学リハビリテーション学科 卒業
・株式会社 奏音
・博士前期課程2年次

臨床にも繋がる思考のプロセスを学ぶことができる

作業療法学分野
九富 佳奈さん Kana Kutomi (指導教員) 藤井 浩美教授

私が大学院進学を決めた理由は、根拠を持ったプログラムの提供をしたいと考え、大学院では、そのような思考のプロセスを学ぶことができると考えたからです。また、遠方からの授業やゼミの参加ができるという点も有り難いと感じていました。ゼミの中では、学部の時に学んだ知識の整理と臨床の中でどのようにその知識を活かしていくかを学ぶことができます。大学院での経験や人との出会いは、臨床だけでは気付くことが難しいことにも視野を拡げてくれます。今後は、臨床現場での疑問を研究という形で解決する能力もつけていきたいです。

研究テーマ | 立位ズボン履き動作習熟に向けたプログラム
自閉スペクトラム症児に対する遊びの効果と持続性

自閉スペクトラム症児の立位ズボン履き動作がズボン履き動作習熟に向けたプログラムの実施により向上することを通常療育プログラムとの比較を行い明らかにすることを目的として、足圧分布解析装置とビデオカメラを用いて研究を進めています。

私の大きな前進

- ・臨床をこれまでの知識と結びつけて考えることができるようになりました
- ・大学院での学びで視野が広がりました

CURRICULUM カリキュラム

博士前期課程の授業科目の概要

看護学分野 2領域

領域	主な授業科目
基礎・地域看護学領域	病態機能学特論、病態機能学特論演習
	基礎看護学特論、基礎看護学特論演習
	看護管理特論、看護管理特論演習
	地域保健行政看護学特論、地域保健行政看護学特論演習
応用看護学領域	家族・在宅看護学特論、家族・在宅看護学特論演習
	精神看護学特論Ⅰ、精神看護学特論演習
	成人看護学特論、成人看護学特論演習
	老年看護学特論Ⅰ、老年看護学特論演習
	母子看護学特論、母子看護学特論演習

領域	主な授業科目
応用看護学領域	老年看護 老年看護展開論Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ
	母性看護 周産期看護展開論Ⅰ～Ⅳ、周産期看護実習Ⅰ～Ⅲ
	精神看護 精神看護展開論Ⅰ・Ⅱ、精神看護学実習Ⅰ～Ⅴ

理学療法学分野 2領域

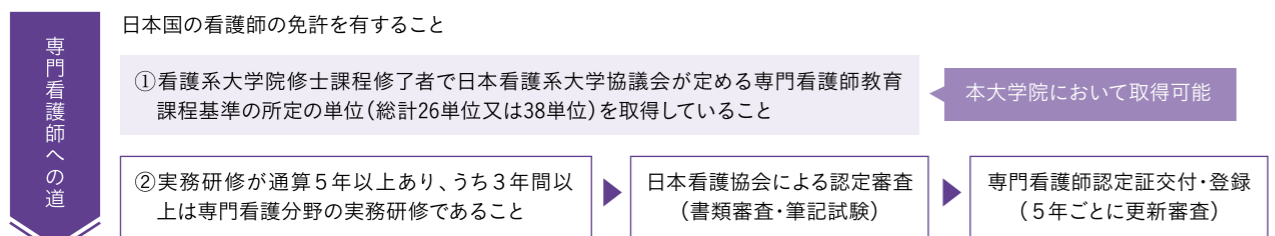
領域	主な授業科目
基礎理学療法学領域	運動解析学特論、運動解析学特論演習
	運動生理学特論、運動生理学特論演習
臨床理学療法学領域	運動機能理学療法学特論、運動機能理学療法学特論演習
	神経機能理学療法学特論、神経機能理学療法学特論演習
	運動障がいリハビリテーション学特論、運動障がいリハビリテーション学特論演習

作業療法学分野 2領域

領域	主な授業科目
臨床作業療法学領域	神経障がいリハビリテーション学特論、神経障がいリハビリテーション学特論演習
	作業活動解析学特論、作業活動解析学特論演習
	内部障がいリハビリテーション学特論、内部障がいリハビリテーション学特論演習
発達作業療法学領域	発達過程作業療法学特論、発達過程作業療法学特論演習
	作業療育学特論、作業療育学特論演習

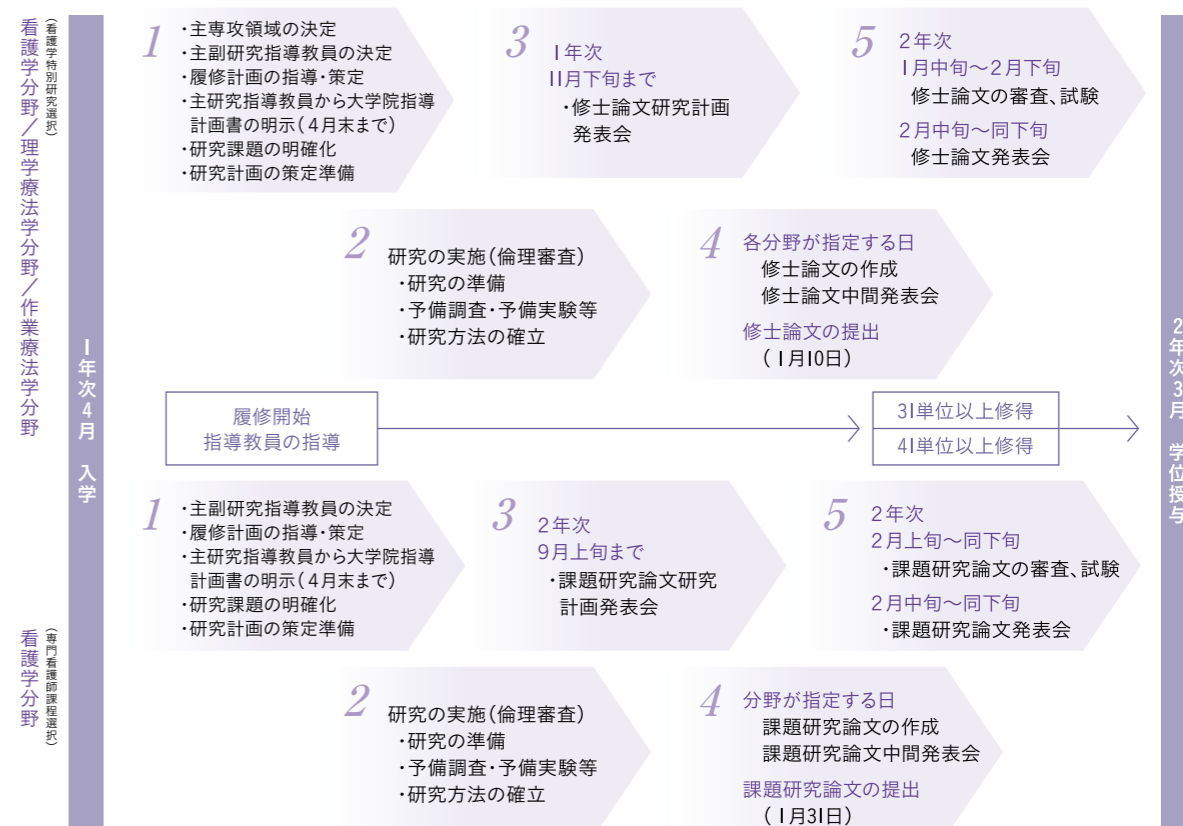
専門看護師の養成

本大学院の専門看護師課程を選択・学修することにより、日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程基準の所定の単位を取得することができます。



SCHEDULE 履修指導および研究指導の方法・スケジュール

博士前期課程学位取得までのフロー[通常の場合]



COURSE REQUIREMENTS 履修単位と履修要件

博士前期課程

修了単位の「31単位以上」又は「41単位以上」を2年間で修得することになります。

詳しくは、下記の表をご覧ください。

①看護学分野(看護学特別研究選択)、理学療法学分野、作業療法学分野

次の基準により、31単位以上を履修する必要があります。

科目区分	履修単位数	備考
共通科目	1単位	必修
	4単位以上	選択
専門支持科目	4単位以上	選択
専門科目	12単位以上	選択
特別研究	10単位	必修

時間割は履修科目数によって違ってきますが、おおよそ1年次の前期に4コマ/週(8単位)、集中講義で5単位、後期に4コマ/週(8単位)、2年次はおもに特別研究になりますので、週2回程度大学に通えば修得可能です。なお、特別研究については担当教員と相談しながら進めることになります。

②看護学分野(専門看護師課程選択)

次の基準により、41単位以上を履修する必要があります。

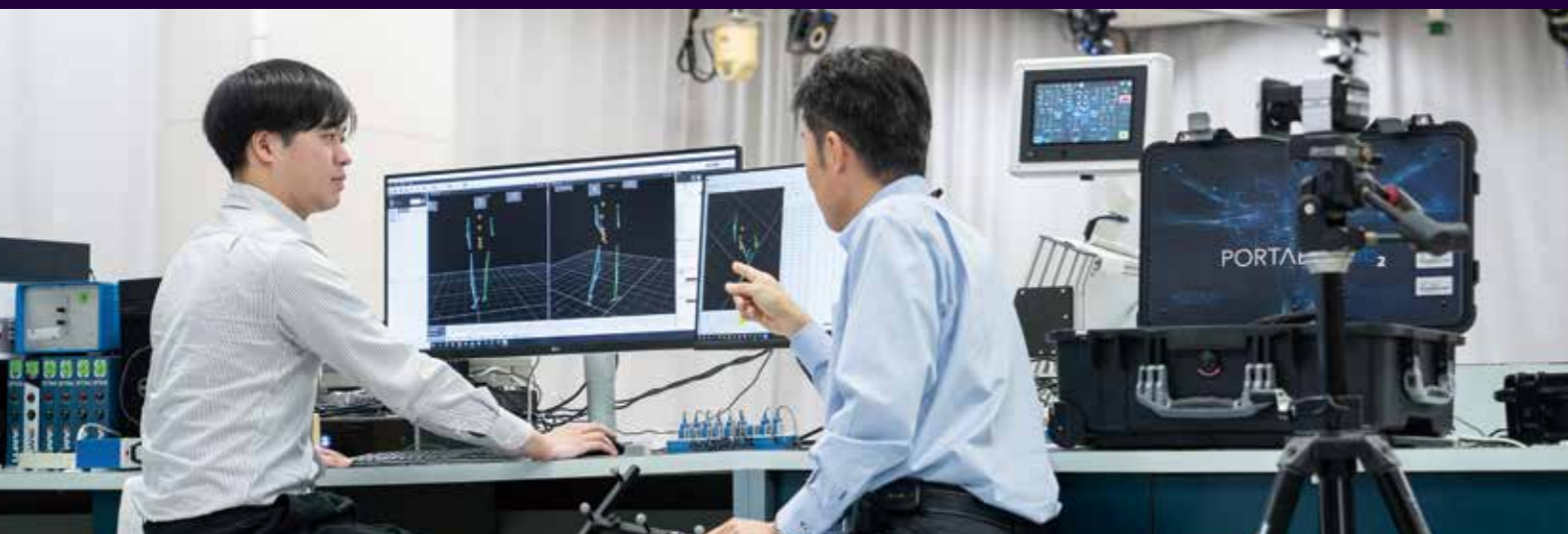
科目区分	履修単位数	備考
共通科目	1単位	必修
専門支持科目・専門科目	8単位以上	選択
専門支持科目	4単位	必修
専門科目	28単位	必修

時間割は履修科目数によって違ってきますが、おおよそ1年次の前期に7コマ/週(14単位)、後期に7コマ/週(14単位)、これに集中講義が加わります。2年次はおもに演習や実習中心のカリキュラムとなります。

博士後期課程

高度な専門的知識や技術をさらに深める

入学定員
3人



OUTLINE 概要

定員 / 3名 学位 / 博士(看護学)、博士(理学療法学)、博士(作業療法学) 標準修業年限 / 3年

CURRICULUM POLICY

カリキュラム・ポリシー

看護学分野、理学療法学分野、作業療法学分野のすべての学生が学際的に学ぶ「共通科目」と、分野ごとに開講する「専門科目」の2つの科目区分で教育課程を編成する。

共通科目

保健医療全般にかかわる社会的課題や、社会発展に貢献する基盤となる多職種連携・協働に関するシステム、研究者・教育者や高度専門実践の指導者としての必要な理論や概念、さらに自立した教育や研究活動に向けた能力を養うための科目を講義や演習形式で配置する。

専門科目

専門分野ごとに研究者・教育者や高度専門実践の指導者として必要な科目を配置し、専門職としての研究テーマや研究方法を追求する能力を涵養する。

DIPLoma POLICY

ディプロマ・ポリシー

101

臨床や教育、研究の場において、変化する保健・医療・福祉の課題と展望を発見し、創造的に解決していくために、幅広さと深さを兼ね備えた高度な専門的知識を活用して、科学的に思考することができる。

102

保健・医療・福祉の向上に、責任感を持ち、課題と展望を見出し、その解決に向けて積極的に貢献する指導者としての姿勢を持つことができる。

103

自らの研究について、あらたな「知」として的確に表現し、意見を交換することができる。

VOICE 院生メッセージ



・山形県立保健医療大学理学療法学科 卒業
・テキサス大学サンアントニオ校に留学中
・博士後期課程3年次

研究に専念できる最先端の施設と充実した指導環境

理学療法学分野

星川 恭賛さん Kyosuke Hoshikawa (指導教員) 村 成幸教授

本学大学院を選んだ理由は①最先端の研究施設が完備されている点②私の研究テーマである肩関節について著名な教授が在籍している点③フルタイムで研究に専念しながら、パートタイムで臨床にも取り組める点でした。本学には各専門分野で著名な教授が多く在籍し、様々なキャリアの大学院生や本学大学院OBのサポートなど、充実した指導環境があります。私自身、これまで多くの先生方のサポートを得て、日々の研究、論文執筆、国内外での学会発表、科研費の取得、海外留学など様々な経験をさせていただきました。今後は私も本学大学院へ入学される皆様の研究活動のサポートに携われたら幸いです。

私の大きな前進

- ・実験設計やデータ解析・解釈を通じて、PDCAサイクルを学べたこと
- ・外部研究資金の獲得を通して、研究資金の獲得方法を学べたこと
- ・海外留学を通じて、国際的なネットワークを築けたこと

研究テーマ | 肩腱板断裂における残存腱板筋の代償的作用の検証

肩腱板断裂では多くの例で肩関節機能の低下がみられますが、中には肩関節機能が保たれている例も存在します。その要因として、腱が残存している腱板筋の代償的作用に注目し、残存腱板筋の代償的作用が肩関節機能に及ぼす影響について検証し、リハビリテーションへの応用を目指しています。

CURRICULUM カリキュラム

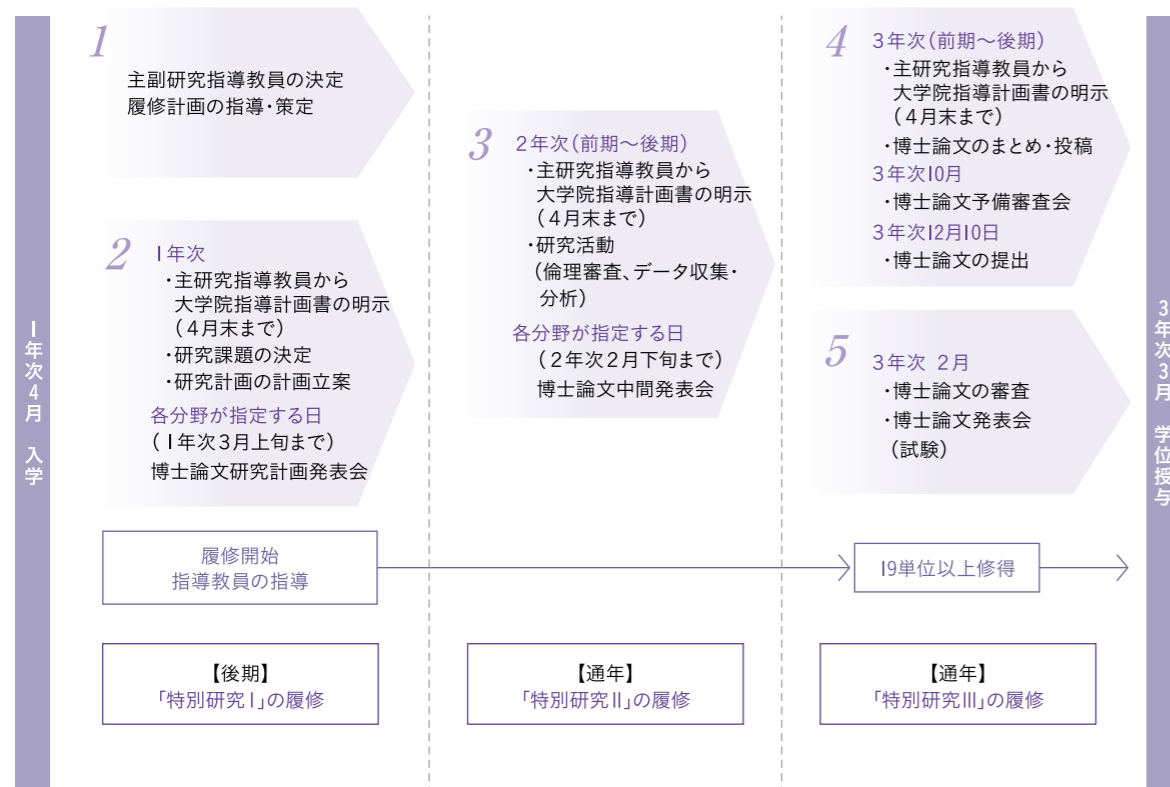
博士後期課程の授業科目の概要

共通科目	保健医療福祉の連携・協働特論
	研究と倫理
	高等教育政策・教育方法特論
	看護の発展と研究特論
	リハビリテーションの発展と研究特論
	生体反応と臨床応用特論
	保健医療の社会的課題と対応特論
保健医療教育特論	

看護学分野	コミュニティヘルス看護学特論
	ヘルスプロモーション看護学特論
	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ
理学療法学分野	運動器障がい動態解析学特論
	機能再建理学療法学特論
	理学療法学特別研究Ⅰ 理学療法学特別研究Ⅱ 理学療法学特別研究Ⅲ
作業療法学分野	生活行為作業療法学特論
	発達過程作業療法学特論
	作業療法学特別研究Ⅰ 作業療法学特別研究Ⅱ 作業療法学特別研究Ⅲ

SCHEDULE 履修指導および研究指導の方法・スケジュール

博士後期課程学位取得までのフロー[通常の場合]



COURSE REQUIREMENTS 履修単位と履修要件

博士後期課程

次の基準により、19単位以上を修得する必要があります。

科目区分	履修単位数	備考
共通科目	3単位	必修
専門科目(特別研究を除く)	4単位以上	選択
特別研究	2単位以上	選択
特別研究	10単位	選択必修



TOPICS 山形県立保健医療大学の注目の話題

TOPICS

01 | 日本保健医療社会学会 奨励賞(園田賞) 受賞



大学院高度実践看護師教育課程(専門看護師コース)修了生の大江祐介さん(山形県立中央病院精神看護専門看護師)が日本保健医療社会学会第18回奨励賞(園田賞)を受賞しました。

園田賞は、優れた論文を発表し、高い評価を得た若手研究者に授与される賞です。大江さんは、前期課程での課題研究として、入退院を繰り返す慢性心不全患者を対象にインタビューを実施し、心不全とともに生きることの経験について明らかにしました。こちらの研究成果は、「保健医療社会学論集」に以下のタイトルで掲載されています。

大江 祐介、安保 寛明、山内 典子:入退院を繰り返す慢性心不全患者の経験に関する質的研究, 34巻1号, 99~109頁
なお、2024年5月25日、26日に開催された日本保健医療社会学会総会・園田賞授賞式において、表彰状の授与が行われました。

TOPICS

02 | 理学療法研究会学術大会にて最優秀賞



2023年11月25~26日に岡山国際交流センターで開催された、第9回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会において、渡部潤一教授が演題発表を行い、報告した演題「潰瘍性大腸炎患者における座位時間と勃起不全に関する関連」が学術大会会長賞(最優秀賞)に選出され、表彰を受けました。本研究は、日本人の潰瘍性大腸炎患者において1日のうちに7時間以上座っている時間が多い患者は、身体活動とは独立して、それ以下の時間の者と比較して勃起不全の有病率が多いという関連性を確認したもので、日本で初めての報告となりました。

TOPICS

03 | Health and Human Sciences Research Dayで研究成果を発表



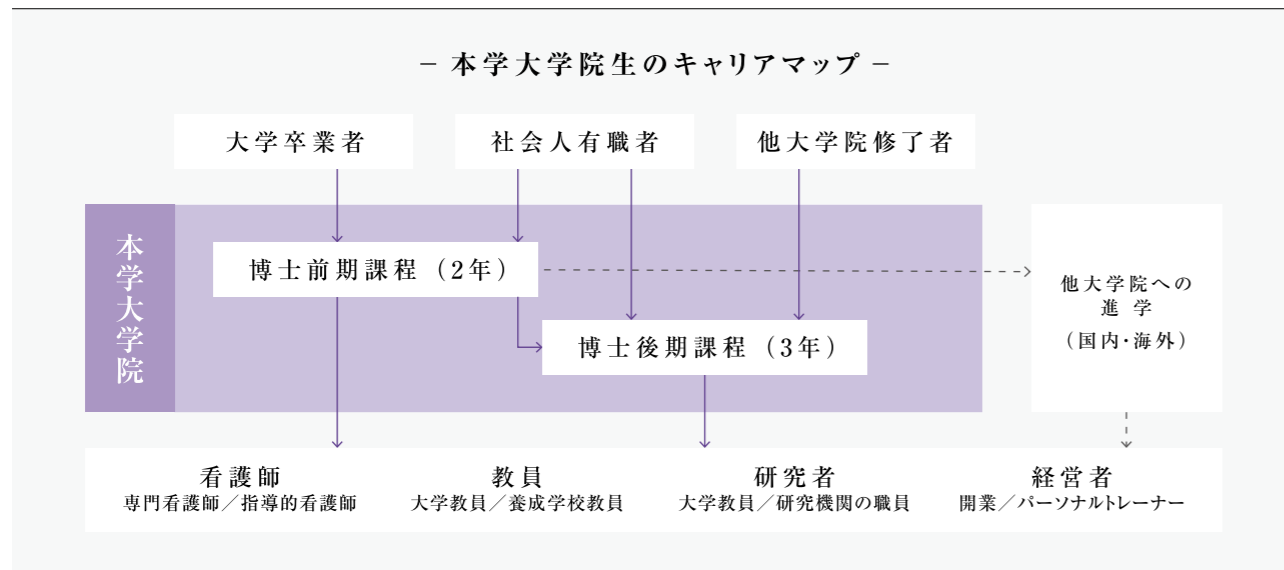
作業療法学科では、2024年3月3日から10日までコロラド州立大学 Colorado State University (CSU) の現地研修を再開しました。その際、佐藤寿見教授は学生引率のほかにHealth and Human Sciences (CHHS) のCHHS Research Dayに研究成果を発表しました。Chronotypic characteristics of sleep, mental health, and daily life of Japanese university of health sciences students, A pilot study of a brief cognitive-behavioral therapy for insomnia among Japanese university students with sleep disturbancesに関してCSUのAaron M. Eakman准教授との共同研究です。CHHS Research DayとはCHHSの各研究室から研究成果を発表、意見交換することで研究促進を図る目的があり、200名以上が参加し、発表の他に基調講演などがありました。

Chrono typic characteristics of sleep, mental health, and daily life of Japanese university of health sciences students. CHHS Research Day, March 5, 2024
A pilot study of a brief cognitive-behavioral therapy for insomnia among Japanese university students with sleep disturbances. March 5, 2024

CAREER PATH

本学大学院から活躍の幅を広げる修了生たち

自らの興味のある分野を深め、研究や論文発表などを通してキャリアを積んでいく大学院生たち。
修了後は教授や研究員など、全国各地のさまざまな領域でその力を発揮しています。



修了生メッセージ

CASE 01 看護学分野



五十嵐 千里さん Chisato Igarashi

2023年 博士前期課程修了
山形県・酒田市病院機構
日本海総合病院(看護師)

専門看護師を目指し、実践的に学べる大学院へ

私は看護師として働くなかで専門看護師になりたいと考え、大学院に進学しました。本学は看護、理学療法、作業療法と幅広い分野の教授、学生が集まっており、実践に活かせる内容を幅広く学ぶことが本学大学院を選択した決め手でした。

本学大学院入学当初は学習環境の良さに驚きました。院生室では看護学だけでなく理学・作業療法の院生とのコミュニケーションを図れること、悩んだときに分野に関係なく先輩方の助言をもらえ、切磋琢磨しながら学ぶことができました。また、担当教授の齋藤美華教授は常に研究的視点を持ち、病院に勤務している私たちの“言語化されていない現場の思い”を言語化し、たくさんの気づきを与えてくれました。大学院での講義で印象的だった学びは患者家族、スタッフとの関わり方です。「専門看護師として」「周囲の成長を促すため」の関わり方は実際に専門看護師として働く講師の話や経験聞き、実習で実践できる本学の学習環境だからこそ得られたものだと思います。現在は専門看護師になったばかりで試行錯誤する日々ですが、将来的にはスタッフが主体的に一人ひとりの高齢者にとっての最善を考え支援できる体制を整えながら、活動の範囲を地域にも広げていきたいと思っています。

MY CAREER PATH

2011 山形大学卒業 > 2011-2013 山形大学大学院にて修士号取得 > 2013.4～ 現職 > 2021-2023 本学大学院にて修士号取得(老人看護専門看護師課程) > 2023.12 老人看護専門看護師認定

CASE 02 理学療法学分野



小宅 一彰さん Kazuaki Oyake

2009年 博士前期課程修了
信州大学医学部保健学科理学療法学専攻
准教授

将来を切り拓く大学院での学び

私は、大学在学中のコロラド大学との交流や臨床実習での経験を通じて、理学療法士として何か一つ自分の強みを持ちたいと考えようになり、学部卒業と同時に山形県立保健医療大学大学院修士課程に進学しました。大学院教育の魅力は、基礎的な研究方法論の学修を通して、研究だけでなく臨床業務にも活用できる高度な問題解決力が身に付くことだと思います。

大学院では、学部の担任であった三和真人先生のご指導のもと、思考のアウトプットに重点を置いたトレーニングを受け、「考える力」と「説明する力」の両方を養うことができました。また全国学会に参加した際は、他大学の先生方や本学の先輩方と交流する貴重な機会にも恵まれ、この出会いが、私のその後の進路選択に大きな影響を与えてくれました。私にとって大学院での2年間は、人生の岐路において新たな道を切り拓くことができた「将来への重要な分岐点」となりました。

現在は大学教員として、重症化予防・介護予防の観点から、起立時の循環応答や活動意欲に関する研究に取り組んでいます。研究の成果を教育に取り入れ、優れた研究力と高度な臨床実践能力を兼ね備えた理学療法士の育成に尽力していきたいと考えています。

MY CAREER PATH

2007 本学卒業 > 2007-2009 本学大学院にて修士号取得 > 2014-2017 信州大学大学院にて博士号取得 > 2023.10～ 現職 ※信州大学着任は2019年4月(助教)

CASE 03 作業療法学分野



仁藤 充洋さん Mitsuhiro Nito

2012年 博士前期課程修了
山形県立保健医療大学 保健医療学部
作業療法学 教授

私の原点であり、未来を創る場所

学部生の頃、将来、作業療法士として働く際に臨床の疑問を解決するために研究手法を身に付ける必要性を感じ、本学大学院に進学。私はフルタイムの大学院生だったことから、自分の感じた疑問について徹底的に調べ、また、恵まれた研究環境を存分に用いて実験を通して検証することができました。この研究に没頭できる大学院生活を過ごしたことで「研究の楽しさ」を学び、それが今の仕事のモチベーションとなっています。指導教員の藤井浩美教授には、様々な研究手法に加えて、研究疑問を解決するための考え方や自分一人では気づくことのできなかった新たな疑問点など、多角的な視点や思考力を教授していただきました。大学院でリサーチマインドを養い、修了後には米国シカゴに研究留学する機会に恵まれ、大学院入学時には想像もしなかった経験をすることができました。

2023年4月からは本学の教員として母校に戻ってきました。今後の目標は、本学学生・大学院生が世界水準の専門家になれるように教育・研究に従事し、作業療法学の発展に貢献すること。加えて、研究の成果を臨床に還元することを目指して、これまで育てていただいた山形県立保健医療大学の発展に貢献したいと考えています。

MY CAREER PATH

2010 本学卒業 > 2010-2012 本学大学院にて修士号取得 > 2012-2015 山形大学大学院にて博士号取得 > 2023.7～ 現職 ※本学着任は2023年4月(准教授)

修業支援制度

長期履修制度

職業を有していたり、介護・育児に従事している等の事情により標準修業年限(博士前期2年・博士後期3年)を超えて一定の期間(博士前期1年・博士後期2年(休学の期間を除く))にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度を設けています。

なお、長期履修制度を利用する場合は、標準修業年限(2年又は3年)を超える長期履修期間の授業料については免除します。

夜間講義・集中講義

社会人が働きながら学べるよう、大学院設置基準第14条により、夜間講義を設けるほか、必要に応じ土曜・日曜・祝日や夏季・冬季休業期間中に集中講義を設けています。

ティーチング・アシスタント制度

優秀な大学院生に、教育的配慮のもとに、教員の教育補助者として、授業の準備・補佐や実習の支援などに従事してもらうことにより、経済的支援とともに教育トレーニングの機会の提供を図る制度を設けています。

リサーチ・アシスタント制度

優秀な博士後期課程の学生に、教員の研究補助者として、研究活動の補助業務に従事してもらうことにより、経済的支援とともに研究者としての研究遂行能力の育成を図る制度を設けています。



出願資格

博士前期課程

出願資格は、①大学卒業者、②大学改革支援・学位授与機構の「学士」取得者、③短期大学及び高等専門学校の卒業者、専修学校専門課程の修了者等で、本学大学院において個別の入学資格審査の結果、大学を卒業したものと同等以上の学力があると認定されたもので22歳に達した者、④その他学校教育法第102条2項に規定する者で、本学入学資格審査基準を満たす者等となります。

なお、③④は出願資格審査がありますので、書類の提出が必要です。

また、入学時において、看護師等の国家資格者として3年以上※の実務経験を有する者については、選抜区分で「社会人特別選抜」を設けています。選抜方法については、面接を重視した点数配分を考えています。

※①国家試験受験後の合格見込みによる採用期間等は実務経験の期間に含む。

②連続した期間でなくとも、通算で3年以上働いていれば可とする。

③判断が困難な場合は個別に検討する。


博士後期課程

出願資格は、①修士の学位又は専門職学位を有するもの(見込みの者を含む)、②大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事し(見込みの者を含む)、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者、③修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められ、24歳に達した者(24歳になる見込みの者を含む)となります。


なお、②③は出願資格審査がありますので、事前に書類の提出が必要です。

募集要項の請求

1. 大学のウェブサイトから請求する場合

大学のウェブサイトから、 テレメールを利用して募集要項等の資料が請求できます。詳しくは、山形県立保健医療大学ウェブサイトをご覧ください。

2. テレメールで請求する場合

 テレメールにアクセスしてください。

<https://telemail.jp>

二次元バーコードを読み取り、アクセスした場合は資料請求番号の入力は不要です。 >>>



3. 大学窓口で受け取る場合

月曜日から金曜日(祝日を除く)の8時30分から17時までの間に、事務室窓口において受領してください。

4. 本学に郵送で請求する場合

郵送により、A4判の書類が入る大きさの返信用封筒を同封の上、教務学生課まで請求してください。返信用封筒には、210円分(1部請求の場合)の切手を貼り、住所、氏名、郵便番号を記入してください。

請求する際は、教務学生課あての封筒に「請求する募集要項等の種類」を朱書きしてください。(記入例:博士前期課程募集要項請求)